



こうごしま 議会だより

No. 169

平成 28 年 8 月 26 日 発行 / 神津島村議会 編集 / 議会だより編集委員会 ☎ 04992 (8) 0011
議会だより編集委員会 委員長 中村親夫 委員 鈴木国忠 委員 清水勝彦
<http://vill.kouzushima.tokyo.jp/> E-mail kouzu@vill.kouzushima.tokyo.jp

● ● ● 村議会傍聴のご案内 ● ● ●

議員の活動や、村政方針及び考え方を知ることが出来る場、それが本議会です。
神津島村議会は皆様の傍聴をお待ちしております



神津島 2016 夏の思い出
(左上：議員自主研修 右上：宵宮祭 左下：子供神輿 右下：渚の花火大会)

目 次

- ◇ 平成 28 年第 2 回定例会 (6 月 8 日) 2
議員自主研修の報告、専決処分 2 件、条例 2 件、補正予算 1 件
- ◇ 一般質問 3
1 名の議員が一般質問
- ◇ その他 4
議会コラム、議会日誌、編集後記

平成28年第2回定例村議会

●平成28年度議員自主研修の報告

4番 中村親夫

今回の自主研修は笠岡諸島における産業、高齢者福祉、人口減少の現状把握をテーマに笠岡諸島、真鍋島、北木島、白石島に行っていました。

笠岡諸島は岡山県の南西端の笠岡市沖にあり、瀬戸内海のほぼ中心に位置し、大小30余りの島々からなっている。有人島が7島あり、島民の数は1,000人から100人たらずである。基幹産業は石材業から漁業、観光業などであり、各島へは笠岡港から運行している定期船や高速船で行くことができ、白石島と北木島港へはフェリーが運航している。また、各島へは海上タクシーの利用も可能である。真鍋島の人口は平成28年2月末221人、北木島894人、白石島530人、高齢化率はそれぞれ65.6%、68.9%、61.8%である。神津島村が28.5%なので数値の高さには驚きを隠せませんでした。真鍋島では真鍋中学校とデイサービスうららの家を訪問しました。中学校生徒が1名、小学校生徒が8名、往時は1000人ほどあった人

口が200人に減少し生徒数が激減してしまったことを肌で感じました。北木島は良質な花崗岩を産出する石材の島で、明治神宮や靖国神社の島居にも用いられたと説明を受けました。最盛期の1957年には花崗岩を採掘する丁場の数が127箇所あったが、その後、安価な輸入石材に押されて石材の産出量は減少し、現在は2個所に減っています。産業が衰退すると人口の減少が加速度的に進む現実が痛みました。白石島には県から譲渡された国際交流ヴィラがあり、岡山県在住のアメリカ人が白石島に移住してから外国人来島客の増加に拍車がかかったようです。

地元で民宿を営んでいる原田さんは修学旅行生の誘致も実施している。海外からのお客さまとの交流を深めるために、最近、国内の大学の外国教員などに観光学を講義、トレッキング、カヤックツアー、海外の学校などの研修旅行引き受けにも取り組んでいると語っていました。各島のデイサービスの現状は真鍋島うらら月、水、金、白石島だんらん、火、木、土、北木島すみれ月、水、金、土、ほほえ

み毎日営業となっていて、定員が10名と神津島のやすらぎの里とは比較にならないくらい規模が小さく、要支援、要介護になると本土にある施設、あるいは家族のもとにいかれるようです。

空家対策についても厳しい現状がある中、人口約2,200人、高齢化率64.3%（平成26年4月）と過疎・少子高齢化の進む笠岡諸島で、各島の有志が集まり、島を活性化させようと団結したのが「かさおか島づくり海社」で島の住民が考え、行政が支援し、協働して島おこしを実践していくという姿勢のもと寄せられた課題の解決を目指し、取り組んでいました。今回の研修では、産業が衰退すると人口減少に拍車がかかるという現実を見たような気がします。神津島の将来も不確定要素があります。元気な島が継続するには何をなすべきかと痛感しました。なお、笠岡市議会妹尾博之議員、笠岡市議会事務局遠田秀数様には大変お世話になりました。

以上研修報告とします。

専決処分2件

◎承認第1号「専決処分の承認を求めることについて」

企画財政課長（鈴木龍也君）
特定非営利活動法人は神津島観光協会のみである。ここに特定非営利活動法人潮彩の会を加えるため、条例の一部を改正する

専決処分の承認を求めるもの。
《原案承認》

◎承認第2号「専決処分の承認を求めることについて」

企画財政課長 条例番号の変更に伴い、条例の一部を改正する専決処分の承認を求めるもの。
《原案承認》

条例2件

◎議案第37号「神津島村簡易水道条例の一部を改正する条例」

環境衛生課長（桜井隆明君）
文言の変更に伴い条例の一部を改正するもの。
《原案可決》

◎議案第38号「神津島村営住宅使用条例の一部を改正する条例」

建設課長（浜川浩一君） 条例の項目が増えたことに伴い条例の一部を改正するもの。
《原案可決》

補正予算1件

◎議案第39号「平成28年度東京都神津島村一般会計補正予算（第1号）」

企画財政課長 歳入歳出それぞれ1億2千910万2千円を追加するもの。

問―5番（石田高道君） 小学校耐震診断調査委託料の追加に

なった理由は。

答―教育課長（前田幸子君）
東校舎の耐震診断分が追加になり増額。

問―6番（松江孝雄君） 電動アシスト自転車購入費、何台購入し、どういう利用を考えているのか。

答―産業観光課長（清水一正君）
10台の購入を予定。多幸湾キャンプ場での利用を考えている。観光客の交通手段となる電動アシスト自転車の購入を支援し助成することにより、観光客の満足度を上げ再来訪の増加につなげることが目的。

問―6番 村内での利用は考えていないのか。
答―産業観光課長 モニタリングも兼ねて、村役場での利用も考えている。

問―4番（中村親夫君） 自然再生可能エネルギーの構築事業工事とは。
答―総務課長（清水豊君）
太陽光パネルエネルギーに関する工事。生きがい健康センター、図書館、開発センターの3施設の建物屋上に、太陽光パネルを設置。施設で使用する電気量の抑制、災害時における避難施設の非常用電源の確保を図る。また、電気自動車を2台購入し、各施設の電力供給を行う。通年使わないときには、庁用車として利用を考えている。さらに、電動アシスト自転車を4台整備。近隣の徴収業務に活用した

り、職員健康増進を努めるとともに、来客時に、電動アシスト自転車体験してもらおう。このように、二酸化炭素量を減らすことで、環境にやさしい島づくりの推進を目指すことが、この工事の目的である。

問—6番 大腿骨骨折等交通費助成金とは。

答—福祉課長（藤井小百合君）

大腿骨骨折等により、島外の医療機関を受診しなければならぬ患者に対し、健康保持と経済的負担を軽減するため、島外の医療機関への移動に要した交通費について助成を行う。大腿骨骨折は、基本的には救急ヘリの搬送の適用にはならない。手術を要する大腿骨骨折を条件とし、島外の医療機関に行くまでの交通費、汽船賃、航空賃、介護タクシー賃で病院に行くまでの片道分を助成する制度。

問—3番（清水勝彦君） 3年前の航海徹底再現プロジェクトとは。

答—教育課長 日本人の祖先が日本列島にやってきた道筋を検証するため、古代の船を再現し人力で台湾から琉球諸島を通って日本列島に渡ることが可能かどうかを試す大規模な航海実験をしている。

航海の中で3万8千年前に神津島の黒曜石も、その経路の中から出土されたことで、そのプロジェクトに対して村から支援をする。

答—村長（浜川謙夫君） 紀元前約3万8千年前に、恩馳の黒曜石が、伊豆半島の愛鷹山にある井出丸山遺跡から出土されている。科学的に調べた結果、神津島の恩馳の黒曜石であることがわかっている。古代3万8千年前に、なぜ神津島の黒曜石が下田に渡ったのか。実験するのには、日本人のルーツはどこからなのか、台湾から沖縄、本土までの航海術がなければ、これは証明できない。神津島の黒曜石を大々的に、全国的に広めていくのにも一助になると考えている。

問—3番 船揚施設整備事業補助金とは。

答—産業観光課長 三浦漁港の船揚施設に新たな構造物、地形等、精査した結果、道路からの電気関係の変更が生じ、電柱及びケーブル等が追加。

《原案可決》

行政報告に対する質疑

問—3番 光プロードバンド工事をして、容量が大きいデータでも送信は可能なのか。

答—村長 光プロードバンドの通信利用が開始になれば、容量が大きいても送信することは可能である。今後、光プロードバンドの利用が開始されれば、通信速度も大幅に改善できる。

問—3番 沢尻のホテルについて協議は進んでいるのか。

答—村長 所有者は設計会社になっており、既に破産している。抵当権を持っている不動産会社は登記をしていない。最終的に村の将来、解体等の負担にならないようにしていかなければならない。その点についても顧問弁護士と協議をして、まず抵当権を持っている不動産会社が早く名義変更するよう、督促を促していく。

議会からのお知らせ

◎平成28年6月30日付で山岸義光議員より辞表が提出され、受理されております。

◎平成28年5月23日に、多幸湧水とつづき堂の湧水採取し専門の検査機関に検査を行いました。簡易水道の水質検査の中でも、最も厳しい52項目の検査を行い、その結果全ての項目において、水質基準に適合しているとの結果が出ました。

一般質問

4番 中村親夫

◎総合戦略推進について

問—4番 国においてまち・ひと・しごと創生法が施行され、第1条ではまち・ひと・しごとを一体的に推進することになっており、第10条では、市町村まち・ひと・しごと総合戦略策定を努力義務としている。本村の

総合戦略推進を実践するにあたり行動指針を村長に伺う。

答—村長 総合戦略、総合計画等を実現するために職員に対してつぎのように指針を示している。指針1として村民の目線で考える。一般村民としての目線、感覚を大切に、村民がどのように意識しているか考えること。指針2として何を指針のか、目的達成のためには、どのように行動すればよいのかゴールを見据えた行動をとる。指針3として慣例にとらわれず、時代の変化に対応するとともに素早く行動する。指針4として、挑戦意欲のある職員を評価しモチベーションの向上を図る。指針5として最低限必要なコンプライアンスの順守、法令及び社会通念を順守する。このように人口減少が確実視される中、少しでもその減少に歯止めをかけ、夢と希望の持てる安心して暮らせる島づくりのため不転の決意で臨みたいと考えている。

4番 総合戦略の推進、実践については、実際に実行していくとなると課題があると思う。官民一体となって目標に向かって汗をかく、仕事をする、具現化することが大切である。

◎地方債に伴う短期・中期の財政状況の展望について

問—4番 地方債残高推移表によると、29年度から31年度にわたり新清掃センター建設、特

養ホーム改修工事のため起債借入を予定している。特養ホームの起債額が辺地債として3億2千万円、新清掃センター起債額が廃棄物債として約13億円となっている。地方債残高のマックスは平成31年度で24億8千万円、返済額のマックスは平成35年度で2億2千万円ほどになっている。平成35年度の実質公債費比率は15.1%となり、平成26年度の1.3%から大幅に上昇する見通しである。起債借入に伴う短期・中期の財政状況の展望について村長に伺う。

答—村長 清掃センター建設の件では13億6,300万円借り入れを想定している。平成35年から平成38年までは年間2億円の元利償還を返済しなければならぬ。実質公債費率も平成35年には15.1%という膨大な数字になっていく。

今年度より特養ホーム大規模改修に係る起債を2カ年で3億2千万円予定しており、辺地債80%算入を予定している。村は何としても辺地債枠を確保すべく尽力することを短期目標としている。今後、可能な限りの歳出の抑制、歳入の確保を最大限に行なった上で、償還のピークとなる平成35年については、減災基金、財政調整基金、公共施設整備基金等の取り崩しを行い、村政、住民生活に支障をきたさないように最大限の努力をしていく、これを中・長期の目標として掲げている。

議会コラム

5 番 石田高道

◎ 神津市場から消えた魚

昭和50年から平成にかけて、盛んに行われたカジキ突棒漁、当時は神津島突棒船団三十隻ほどで漁場は大島から八丈島あたり、日帰り操業や、八丈島に何日か泊りて漁をした思い出があります。

大漁の日には全船で三百本ほどの水揚げがあり、市場に並びきれなく、中棧橋まで並べての入札、村中が活気に満ち、盛り上がった時代でした。

当時の水揚げ高は昭和60年、2億3千万円、平成に入り1億5千万円、平成12年は、2千5百万円と落ち込み、平成21年から27年には水揚げ高0円となりました。

春トビ流し刺網漁は、昭和53年頃、六隻位で操業していたそうです。この頃の水揚げデータがなく

昭和60年からのデータを見ますと4,240万円、63年4,500万円、平成10年の1千万円、この頃から操業を止める船が出てきて、流し刺網漁は無くなったとの事です。当時の船主に止めた理由を聞くと、単価が安くなった事、トビ魚が沖合を通るようになった事だ

そうです。今は夜釣りでイカ釣りの際にタモで掬ってくるトビを市場でたまに見かけるだけで、ここ数年、水揚げ高は1千円単位で市場から消えた魚と言っても良いのではないのでしょうか。

昭和50年から60年代に青ぜの大漁があり、青ぜ年と言われました。何年も続いたが、数年後には市場に水揚げされることなく消えていきました。乱獲が原因で捕れなくなったのではないかと言われています。

建て切り網(キンチャ)は昭和62年2億1千万円、63年2億2400万円、平成元年2億4400万円、平成6年には2億2700万円の水揚げで市場が活気づいた、大漁の時代でした。

現在は、三協網組が諸般の事情等により、漁法をタカベ刺網漁に変えて、ここ数年、操業されています。神津市場からタカベがなくならないよう、頑張つて操業を続けてください。大漁を願っています。

一本釣りの水揚げ高は、昭和60年から平成7年まで10億円ほどに成っていました。平成27年は20年ぶりに10億4800万円となり組合員の皆様の、操業努力の結果と高く評価されています。

しかし、全体の水揚げ高の8割を金目鯛が占めており、漁業者の中には、魚も小さく、量も少なくなり今後の操業に、危機感を持っているようです。

年に数回、一都三県による一本釣り協議会にて、金目鯛資源を永く利用すべく、資源管理の取組みの良い話し合いが行われています。金目鯛資源を絶やさぬよう頑張つて欲しいと思います。

結びに漁業に関わる皆様方の航海の安全と大漁を祈念しております。

議会日誌

平成28年

3月8日 平成28年第1回定例会(10日まで)

11日 神津高等学校卒業式

16日 消防団後任幹部選考会・承認伺い

18日 神津中学校卒業式

24日 第2回経済民生委員会

28日 神津小学校卒業式

28日 第1回定例会・再開

4月2日 消防団新旧幹部引継会

6日 神津小学校・中学校・高校 入学式

15日 阿波命例大祭

19日 シュリア際執行委員会

24日 アクアスロン大会実行委員会

27日 天上橋開通式典

27日 議会だより編集委員会

5月4日 平成28年第1回定例会会議録署名

佐久バルーンフェス・佐久鯉まつり

(副議長対応)(5日まで)

大島支庁管内事業説明会

10日 神津島やすらぎの里開設20周年記念式典

15日 東京都島嶼町村議会議長会臨時総会

16日 東京都島嶼町村議会議長会定期総会

17日 東京都町村議会議長会役員会

18日 東京都町村議会議長意見交換会

議山研修視察

18日 岡山県笠岡諸島 20日まで)

20日 下田黒船祭

(副議長対応)(21日まで)

21日 第47回シュリア祭(22日まで)

28日 島じまん2016(29日まで)

30日 全国町村議会議長・副議長研修会

(31日まで)

6月3日 平成28年第2回定例会議会議運営委員会

編集後記

太陽系で地球の1つ外側の軌道にあり、ほぼ2年2ヶ月の周期で地球に接近をくりかえす火星が、今年5月31日に地球に最接近して「スパーマーズ」といわれました。

季節に移ろいがあるように星空の世界にも移ろいがあります。

8月中旬の夜8時ごろ、南の空には天の川に大きなS字型で横たわっているさそり座が目にとまります。この星座は明るい星が多く、日本では夏の三角形(こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブと明るい星を結ぶ)と共に夏の星座として親しまれています。

さそりの心臓部にあたる星はアンタレスと呼び火星に対抗する者という意味であり、赤い火星とさそり座の真つ赤な1等星アンタレスが赤さを競い合つて並び、近くには土星も輝いているので印象的な光景として楽しめます。

都会では味わえない星空散策。夜空の暗く澄んだ素晴らしい環境がある神津島。美しい星でにぎやかな夏の夜空を見上げ、星座の物語など宇宙や星に思いを馳せ、じっくりと星空散策してみるのも一興です。

さて、6月に行われた、28年第2回定例会議で一般会計補正予算(第1号)が可決されました。歳入では地方交付税2,900万円、都支出金4,335万円、諸収入5,198万円の増となり、計12,910万円の増額となり一般会計の歳入合計は288,676万円となりました。歳出の主なものは低酸素地域づくり設備導入事業費8,673万円となっています

「議会だより」編集委員会一同

- 委員長 中村 親夫
- 委員 鈴木 国忠
- 委員 清水 勝彦